

第2表 町内の河川

番号	名称
1	松坂川
2	大坂川
3	山神川
4	今川
5	田原川
6	喜多良川
7	高屋川
8	西河内川
9	中河内川
10	天ヶ谷川
11	犬丸川
12	祓川
13	馬場川
14	龍毛川
15	藏持川
16	宮園川
17	岩屋河内川
18	釜之河内川
19	向河内川
20	原川
21	猿田河内川
22	古谷河内川
23	寺河内川
24	藤神川
25	扇谷川
26	神丸川
27	平鶴川
28	立川
29	市場川
30	高越川
31	荒畑川
32	砂迫川

国土地理院発行の福岡県の五万分の一の地形図を参照して考察する。本町は県の東北部、京都郡の南部で、北部は飯岳山から馬ヶ岳への稜線で行橋市、勝山町と接し、東は築上郡築城町、豊津町と隣接している。西は飯岳山から焼尾峠を結ぶ稜線が田川郡境をなし、さらに南部は英彦山から犬ヶ岳を結ぶ山系を分水嶺として大分県と境している。地形は細長くクサビ型をした東西七キロ、南北二・五キロで総面積九七・九七平方キロである。標高は南高北低で急峻な山々に囲まれている。

一 地 形

第一節 地形と地質

第三章 地勢と気候

源を英彦山に発する今川、祓川の二河川沿いの両側に平坦地が開けていて本町の中心部や各集落等並びに農耕地が集まっている。他は山あいの溪谷沿いに点在し、平坦地帯、山麓地帯、山間地帯に大別され複雑な地形である。飯岳山（五七三メートル）から東北東方向へは飯岳地塊列の鉄高坊（四六三メートル）、御所ヶ岳（二四六・九メートル）、馬ヶ岳（二二六メートル）が立ち並び、この南部は小河川を集合しながら北東へ貫流する今川の中流域に広がる小規模な犀川盆地であり、この低地帯は浸食作用により形成されたものと思われる。また、祓川沿いの両側に開けた支川三一を集合した城井地区には、平坦地はかなりあるが伊良原地区になると平坦地が少なくな山麓斜面や溪谷に狭い農耕地やその集落が開かれている。なお、この地域には河岸段丘面が点在しているところがある。

二 地 質

本町の地質構成は、福岡県地質図によれば北部一帯にかけては嘉穂型黒雲母花崗岩が馬ヶ岳の南より藏持山に至る地方に分布し、馬ヶ岳の北側及び藏持山から下伊良原に至る地方では角閃岩があり、町の中央部は、朝倉型花崗岩類が深層部を形成している。南部は新生代第三紀溶岩